

インターネットは趣味のかたちを変えたのか

—個々の楽しみから他者との共有へ—

氏名 佐々木恋文

本研究では、インターネットの普及により、人々の趣味の行い方や楽しみ方が変化しているのか、文献やアンケート調査をもとに分析することを目的とする。インターネットが普及した現代で趣味は自己表現のための行為になっていると感じ、趣味に関する調査を行った。

第1章、第2章では、「distinctionーディスタクシオン」という概念用語を用いて、趣味が自己表現を可能にしていることについて述べた。「ディスタクシオン」とは単純に「区別」を意味する語であるが、もうひとつの意味として「卓越性であり、抜きん出ていることによって他の人間から区別されること」である。趣味というものは他人より勝っていると自称できる行為のことを指し、その行為は自己を表現する行ものにもなりえる。

第3章では大学生以上の男女57名に趣味に関するアンケート調査を行った。主な内容として、「現在の趣味」「趣味を行う際のインターネットの使用方法」「趣味を通して繋がったインターネット上の友達について」を調べた。その結果から、89.5%にあたる51人が「趣味を共有したい」と回答し、84.2%にあたる48人が「趣味をSNSに投稿する」と回答した。

第4章と第5章では、アンケート結果をさらに分析し、趣味には「一般的な趣味」と「個人のアイデンティティになる特別な趣味」があると考察した。「一般的な趣味」にあたるものは、「音楽鑑賞」や「YouTubeなどの動画視聴」といった消費活動である。一方で「個人のアイデンティティになる特別な趣味」は「コンサート・ライブ会場での音楽鑑賞」や「写真の撮影」「推し活」「カフェ巡り」といった、現地に赴くための行動力や行為を実行するためのお金、時間などが必要になる行為である。これらの特別な趣味はインターネットが普及したことにより、さらに価値が高まったと考えられる。現代の人々は、身近な友人や、趣味がきっかけで繋がったインターネット上の友人に、趣味を共有するかたちで、自己表現をおこなっている。これは自己顕示欲を満たしているとも言える。趣味は「卓越性であり、他人より抜きん出ていることによって他の人間から区別されること」であり、インターネットはそうした自己表現としての趣味のかたちをさらに加速させている。以上の内容から、本論文のテーマである「インターネットは趣味のかたちを変えたのか」という疑問に対し、「1部の趣味のかたちを変えた」と結論づけた。